

7回目の親善訪問団 本市を訪問

去る平成22年7月15日（木）、アメリカ合衆国テキサス州タイラー市より平成4年5月に姉妹都市提携してから第7回目となる親善訪問団が八千代市を訪れました。バーバラ・バス市長、ヘンリー・ベル姉妹都市委員会会長など総勢25名で、この日から5日間、一行は受入実行委員会が用意した歓迎パーティー、バス旅行や日本文化の体験など数多くの行事に参加しました。
（2ページ～5ページに関連記事）

▼小林道夫受入実行委員会委員長の発声により「三本締め」をするタイラー市の皆さん（7月15日歓迎パーティーで）



受け入れは2010年タイラー市親善訪問団受入実行委員 姉妹都市提携20周年記念は

前回八千代市を訪れたのは平成19年7月。3年後の今回、2010年タイラー市親善訪問団受入実行委員会が昨年の9月から準備に取りかかり、準備万端でタイラー市親善訪問団をお迎えしました。それでは、写真などを通して振り返ってみましょう。

平成21年9月5日に第1回の2010年タイラー市親善訪問団受入実行委員会が開催され、受入実行委員長に小林道夫氏を選出し、活動が開始されました。活動回数は14回にもおよび、特に今回、受入事業の基本的な取り組みとして、「八千代市側の関係者全員がホストであり、ホストに徹してタイラー市の皆さんを受け入れる」という考え方を明確に打ち出したことがあげられます。また、小林委員長の毎回にも及ぶ会議資料の作成が今回の受け入れ成功につながったのは言うまでもありません。

さて、第1日目ですが、親善訪問団は表敬訪問のためバスで市役所へ。ここでは市主催のため豊田市長や西村市議会議長の歓迎のあいさつ後、記念品の交換となりました。早速、豊田市長はタイラー市長からいただいた記念品を開けると、見事なバラの絵に思わず「すばらしい」の言葉が出るなど、タイラー市長に感謝していました。この日の国際交流協会側の出席者は19名にもほり、豊田市長からタイラー市側に紹介され、受け入れの第一歩が始まりました。

次は会場を市民会館に移して行われた記念植樹。これは八千代市国際交流協会と八千代市との共催で開催されたものです。両市長のあいさつ後、八千代市を訪問して下さったことを記念し、更に両市の友好関

係が広がることを祈念して、バラとアメリカ・ハナミズキを植樹しました。

また、この記念植樹とは別にタイラー市の子供たちが萱田南小学校で交流を行っています。6歳から16歳までの4人が授業や給食を体験しました。特に体育館の床掃除では、多少の戸惑いがあったようですが、無事終了しました。

記念植樹の後には、市主催の歓迎昼食会が大和田新田にあるサンマルクで開催されました。出席した国際交流協会の会員は周郷会長ほか17名。両市長あいさつ後、西村市議会議長がジュースで乾杯の音頭を取り、和気あいあいの内に終わりました。

いよいよ国際交流協会主催の歓迎パーティーがウィッシュトンホテルで午後6時から始まりました。歓迎のあいさつが周郷会長よりあり、お礼のあいさつがヘンリー・ベル会長からありました。今回のパーティーは、フォーマルの雰囲気を出そうということで、BGM以外は一切排除し、個々に歓談・友好・親交を深めることに重点をおいたパーティーとなりました。特に、受入実行委員会の皆さん一人ひとりがホストの主役としてタイラー市の皆さんをお迎えしていただいたことは、今後につながる新しい形の歓迎パーティーではないかと思われまます。75名が参加。



表敬訪問記念撮影（7月15日）

会が実施 タイラー市で

2日目は、タイラー市の皆さんが楽しみにしていたバス旅行。午前中は、菅原工芸硝子株式会社でガラス職人の方とベアーになり、真剣な眼差しで作品づくりに取り組んでいました。皆さん貴重な体験となったようです。午後は、九十九里では残念ながら地引き網にチャレンジすることはできませんでしたが、昼食後、オーシャン・ビューが素晴らしい国民宿舎ホテルサンライズで海辺まで行き、潮風を十分堪能したようです。中止となった地引き網の代わりに行ったのが鴨川シーワールド。

到着後、集合時間と集合場所を決めておき、タイラー市の皆さんの興味に合わせて自由見学にしました。同行した受入実行委員会の皆さんも一人ひとりがホストに徹してくれたようです。「地引き網が中止になり残念でしたね」と尋ねてみると「私は地引き網が中止になって良かった。むしろ鴨川シーワールドの方が良かった」という返事をいただき安心しました。

夕方、バスで「海ほたる」へ到着。集合時間と集合場所を確認し、5階のレストランで夕食、見学、ショッピング等と、皆さん自由に楽しんでいただけたようです。43名が参加。

3日目は、午前中は村上にある「古久」の見学。古い日本家屋の見学、骨董品の鑑賞などした後、レストラン古久で昼食を取りました。きれいな和紙に日本語と英語で印刷したメニューを食事と一緒に出してくれたり、オーナーの川嶋さん自らが竹のお皿やカップを手作りで用意してくださったり、本当にありがとうございました。バーバラ市長さんも「ごぼうのたたきを食べたのは今回が初めてでしたが、すごく美味しかった。天然酵母パンやざる豆腐、サラダのドレッシング、すべてが美味しかったわ」と言われ、日本料理ファンが一人増えたのは大変うれしいことでした。

午後は保品にある東京成徳大学を訪問。この訪問に関しては、受入実行委員をされている山田さんがパイプ役として活躍され、大学と親善訪問団との交流は、大学側が主体となって進めることになりました。この交流は、姉妹都市交流の若い世代への拡大の第一歩であり、今後の姉妹都市交流を考える上で非常に大きな意義があるものと思われまます。

受け入れを終えて

八千代市国際交流協会
会長 周郷紀男



2010年タイラー市親善訪問団受入実行委員会の皆様本当にお疲れさまでした。今までの受け入れとは別の視点に立ち、八千代市を中心とした県内の案内をされ、訪問団は、各所において満足感のある喜びを持ってくれたと思います。これは、実行委員の皆様がそれぞれ専門的な知識を十分に活用され、一人ひとりが任された職務を常に新しいチャレンジとされたことによるものです。最初に任された仕事の役割をしっかりと果たし、責任感を持って取り組んでいただき、そこに実行委員会に対する相互の信頼が生まれたのだと思います。これからタイラー市との絆は太くなることは必然ですが、市内・市外の人たちとの交流により、更に築き上げようとしている姉妹都市交流を、若い人たちが次の世代につなげてくれることを願っております。

さて、日本の文化体験では「お茶席」を、日本古来の遊び体験では、「けん玉」「あやとり」「折り紙」「独楽まわし」などで皆さん楽しんでいました。このほか「十二単」「甲冑」「狩衣姿」の試着に笑みがこぼれるなど、大成功のうちに終わりました。

夕食は米本の国道16号線沿いにある「レストラン・WAIKIKI」。この日行われたフラダンス・ショーは、事務局の野神さんが経営者と掛け合ってくれたもので夕食の楽しい雰囲気を更に盛り上げることができ、タイラー市の皆さんにも大いに楽しんでいただけたことと思います。45名が参加。

4日目はホームビジットとさよならパーティーがありました。ホームビジットでは「テレビや本で知るよりも、生のアメリカのことが聞いて良かった」「個々の友情を深めること、また、現在の日本や日本人を理解していただくのに良かった」「自然体で楽しく交流できて良かった」など多くの意見が寄せられました。

最後の夜は、八千代市国際交流協会とY T F C (Yachiyo Tyler Friendship Club)共催による「さよならパーティー」。カジュアルな雰囲気で開催者全員が楽しめるパーティーにしようと、津軽三味線演奏・踊り、南京玉簾、阿波踊り等が行われ、更にタイラー市親善訪問団によるアトラクションなど大いに盛り上がった楽しいパーティとなりました。途中でバーバラ市長から「姉妹都市調印20周年記念は2年後タイラー市で行いましょう」とのあいさつがあり、八千代市国際交流協会としてはこの提言を受け、2年後の2012年10月にタイラー市を訪問する予定です。128名が参加。(三橋伸一郎/写真特集は次のページから)



▲バーバラ・バス市長のほか24名の方々が表敬訪問のため市役所を訪れました(7月15日)



▲西村幸吉八千代市議会議長のご発声によりジュースで乾杯をする訪問団の皆さん(7月15日)

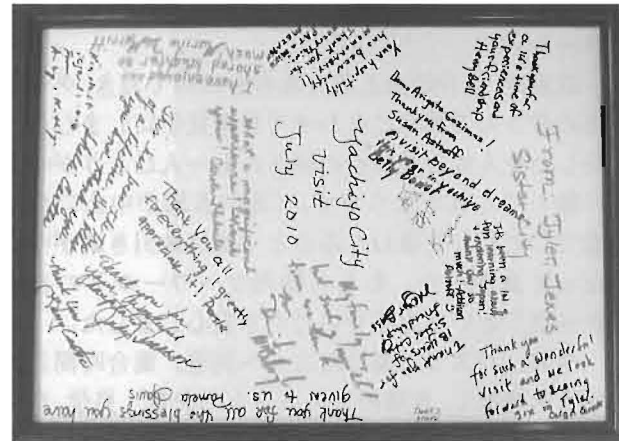
▼「竹の器はオーナー自らが用意したものです」と説明する小島さん(7月17日)



▶「こんなに真っ黒になりましたと雑きんを見せる4人」(7月15日萱田南小学校で)



▼タイラー市親善訪問団25名からの寄せ書き(7月18日)



◀アメリカ・ハナミズキを記念植樹するバーバラ・バス市長と豊田俊郎市長(7月15日市民会館で)



▼バスに乗って九十九里に向かうタイラー市の皆さん(7月16日)

受け入れを終えて

2010年タイラー市親善訪問団
受入実行委員会
委員長 小林 道夫



7月15日から19日までの5日間、25名の親善訪問団の皆さんは、全員無事に日程を消化し、八千代市に対する認識を新たに満足してお帰りになったことと思います。短い時間でしたが、大変和やかな交流を繰り返すことができました。ご協力本当にありがとうございました。また、本事業は今後も永続的に传承されていかなければなりませんし、親善訪問団の皆様を第一に考えることが必要で、私どもはあくまでもホストに徹することをモットーにしていかなければと考えております。今回の受入事業に多少なりとも成果らしきものがありましたら、それは今後のタイラー市と八千代市の姉妹都市活動の糧にいただければ、ありがたいと思っております。



▲この日の地引網は中止に。でも九十九里の海に入り皆さん満足(7月16日)



▲東京湾アクアラインの「海ほたる」で記念撮影(7月16日)



▲じっとしていても汗が出てきます。でも皆さんとってもお似合いですよ(7月17日東京成徳大学で)



◀タイラーの皆さんを魅了した「ハワイアンダンス」(7月17日)



▼学生さんと一緒に「けん玉」に挑戦するタイラー市の皆さん(7月17日 東京成徳大学で)



◀骨董品の展示即売会や鑑賞など「古久」では古い家を見学して回りました(7月17日)



▼アメリカの歌を披露するタイラー市親善訪問団の皆さん(7月18日さよならパーティーで)



▼素晴らしい踊りを見せてくれたマッカーラーご夫妻(7月18日さよならパーティーで)

第5回インターナショナルデイ ペルーの民族舞踊で最高潮

八千代市国際交流協会主催の第5回インターナショナルデイ「八千代で世界と出会おう」が、2010年9月12日（日）午後1時からフルルガーデン八千代噴水広場で行われました。今回は、市内に在住する外国人の母国の紹介、今年のタイラー市との交流写真展、本交流協会の活動内容の紹介などです。

出演は、スウィングジャズ演奏の習志野スウィング・ソサエティ、大正琴の愛琴会きわみグループ、伝統装束体験の東京成徳大学日本伝統文化科、中南米音楽のバリエダ、ペルー民族舞踊のfolkloreとマリネ

ラの皆さんです。特に今回、東京成徳大学が用意した十二単や甲冑などに、フィリピン、ペルー、ホンジュラス、アルゼンチン、ブラジルの人たちが挑戦し、初めて着る衣装に皆さん興味津々の様子でした。また、ペルーの民族舞踊では子供から大人までがアップテンポの音楽に合わせて踊り、観客を魅了し最高潮に達して無事終了いたしました。



▲folkloreとマリネの皆さん



▲伝統装束の説明をする東京成徳大の青柳教授



▲習志野スウィング・ソサエティの皆さん

▼圧巻だったペルー民族舞踊



▲中南米音楽のバリエダの皆さん

▲大正琴の愛琴会きわみグループの皆さん

語学研修旅行で 茨城県大洗海岸へ

好天に恵まれた10月23日・24日の両日、外国語指導助手（ALT）が参加し、語学ボランティア部会の語学研修旅行が茨城県大洗海岸で行われました。この旅行は毎年秋に行われる恒例行事で、今年は9回目。

参加者は部会員13人、外国人5人の計18人。部会員参加は2組のご夫婦があり、外国人はジェイミーさん（米国・タイラー市）、ケイティーさん（米国）、キムさん（米国）、アマダさん（カナダ）、英語教師レイさん（米国）が参加しました。

マイクロバスで勝田台を出発し、キッコーマン醤油野田工場の見学をしました。ソーイ・ソースとして世界中で愛好されている醤油の製造工程は興味深いものでした。雄大な「袋田の滝」を見学した後、大洗海岸のホテルに到着しました。夕食の前に今回の旅行の主目的となっている語学研修を行いました。外国人のスピーチを集中して聞くことにより、リスニングの訓練になりました。米国での人気スポーツ、日本での怖い出来事、陶芸の話など話題は多岐にわたり、若い外国人教師が日本でたくましく生活している様子が伺われ

ました。夕食後の懇親会では、部会員が積極的に英語で話かけるなど、充実した一日となりました。

翌日は、歴史博物館、魚市場を見学し帰路につきました。英語を聞き、そして話す機会が多くあり、大変有意義な研修旅行でした。（瀬下和正）

▶ホテルで語学研修を行う参加者たち



▼ホテルの前で記念写真



第4回サバイバル 日本語講座を開催

日本語を母語としない子どもたちのための「サバイバル日本語講座」も4回目となりました。日本語ボランティア部会を中心に八千代市国際交流協会の皆様の応援のもと、千葉県国際室、コンベンションビューローの沼田センター長も激励に駆けつけてくださり、また、東京成徳大学の学生さんも参加され、今年9月24日から26日まで村上公民館でにぎやかに開催されました。

中国、フィリピン、ブラジル、コロンビア、メキシコ、アルゼンチンを母国とする小・中学生15人が参加し、小学生は買い物ゲーム等を取り入れた学習やクラフト（粘土）を、中学生は身近なテーマで自分の考えや意見を日本語で表現する力を作文として完成させる学習に真剣に取り組みました。

2日目の午後は、バスで市川市にある県立現代産業科学館へ行き、各自興味のあるコーナーを回り、興味深く科学の体験をしました。このことは、子どもたちにとって楽しい思い出となり、今回の講座の中で一番の人気となったようです。（齋藤貴美子）

▼最終日にそろって記念写真



●22年度予算の概要は 次のとおり

八千代市国際交流協会の平成22年度予算が平成22年4月11日に行われた総会で決まりました。その概要は次のとおりです。

■収入 単位：円

| 科 目 | 金 額 |
|---------|------------------|
| 1. 会費収入 | 1. 会費収入 674,000 |
| 2. 補助金 | 1. 補助金 1,600,000 |
| 3. 繰越金 | 1. 繰越金 285,765 |
| 4. 雑収入 | 1. 雑収入 1,235 |
| 合 計 | 2,560,000 |

■支出 単位：円

| 科 目 | 金 額 | 摘 要 |
|---------------------|---------------------------------|---|
| 1. 事業費 1,385,000 | 1. インターナショナルデー 200,000 | 謝金 100,000 出演者・協力者謝金 需要費 90,000 ポスター制作・事務用品など 役務費 10,000 イベント告知など |
| | 2. タイラー市訪問団 受入事業費 680,000 | 需用費 530,000 タイラー訪問団受入経費 役務費 150,000 タイラー訪問団受入経費 |
| | 3. 広報事業費 180,000 | 需要費 130,000 広報紙「clip」印刷 委託料 50,000 HP制作委託料 |
| | 4. 部会事業費 325,000 | 部会事業費 325,000 国際姉妹都市部会、日本語指導ボランティア部会、語学ボランティア部会、国際交流推進部会 |
| 2. 事務費 1,145,000 | 1. 事務費 1,145,000 | 需要費 100,000 事務用品・会議用茶菓代 |
| | | 役務費 220,000 会議通知・資料送付・電話代等 |
| | | 人件費 770,000 事務職員給与・労災 |
| | | 研修費 15,000 研修参加費補助 |
| | | 負担金 10,000 千葉県国際交流センター団体会費 |
| 3. 予備費 30,000 | 1. 予備費 30,000 | 予備費 30,000 |
| 合 計 | 2,560,000 | |

新しく着任した 3人の外国語指導助手

市内では6人の外国語指導助手（ALT）が中学校で英語を教えています。9月から着任した3人の方をご紹介します。（広報やちよ9/1号）から一部抜粋）



●ポーチヤ・チャイルズさん/米国タイラー市

「八千代の子どもたちはかわいい」と大きな目を輝かせて、太陽のような笑顔で話すポーチヤさん。好きな色は桜色とのこと。お茶会やお祭りなど地元の文化に触れるのを楽しみにしています。京都旅行にも行きたいし、日本語も習いたいしと今から夢がふくらんでいます。



●アマダ・シャルズさん/カナダ・ウィンザー市

日本に来ることが夢だったというアマダさん。大学では美術を専攻。星裏一版画展示室では感動して思わず時間を忘れてしまったとか。「友だちも思い出もたくさん作りたいので、八千代の皆さん、見かけたらぜひ話しかけてくださいね」とにっこり。日本料理はうどん、そば、ラーメンなどの麺類が大好きです。



●ブリアナ・スミスさん/米国タイラー市

ALTになったきっかけは、日本の歴史に興味があったから。八千代の印象はきれいで素敵な街。時間があるときには散歩も楽しんでいるそうです。趣味は音楽と写真。「ショートストーリーも書くので俳句にもぜひチャレンジしたいです」。生徒たちには英語は勿論、アメリカのこともたくさん伝えたいと意欲的です。

八千代市多文化交流センター 村上団地内に10月1日オープン

多文化共生時代を迎え、八千代市には多くの外国人居住者がいます。この人たちが生活する上でまず困ることは、言葉が分からないことです。聞くことも、話すことも、読むこともできなかつたら、生活に必要な情報を得ることはできません。それが原因で地域住民の方々とのトラブルにつながることもあります。

このため八千代市では、多文化交流センターを村上団地内に10月1日（金）オープンしました。住所は村上団地2-9-103。この施設では市内に比較的多く在住しているポルトガル語、スペイン語、英語、中国語を使う人たちのために別記のとおり通訳を配置し、対応することになりました。この結果、外国人の方が安心して必要な情報を得たり、相談することが可能となりました。主な業務は次のとおりです。

(1) 多言語による情報の発信

日本で暮らしていくために、果たさなければならない義務や守らなければならないルールなどの生活に必要な情報のほか、地域のイベント、公共施設などについて多言語で紹介

(2) 手続きなどへのサポート

市で手続きできる制度についての情報提供などの支援。市の業務以外の法的な問題や手続きなどについては、相談できる機関を紹介

(3) 交流の場を提供

市民団体や関係機関などと協力して、お互いの国の文化を理解するために地域の外国人と日本人が交流する場の提供

(4) 生活に必要な日本語の指導

日本で生活していくために必要な日本語を身につけられるよう支援

| 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| ポ・西・英 | ポ・西・英 | ポ・西・英 | ポ・西・英 | ポ・西・英 | 中・英 |
| 相談日 | | 相談日 | | 相談日 | |

※相談時間・通訳のいる時間は午後1時から午後4時まで。
開所時間は午前9時から午後5時まで。ポ：ポルトガル語
西：スペイン語 英：英語 中：中国語

会員を募集しています

八千代市国際交流協会では会員を募集中です。詳しくは事務局（047-752-0593）へお問い合わせください。年会費は個人2,000円、家族3,000円、学生1,000円、サークル10,000円となっています。



平成22年度篤行者表彰 副会長の 瀬下和正氏が受賞

瀬下さんは、千葉県国際交流協会の語学ボランティアの経験を生かして八千代市語学ボランティアの会を設立し、県及び八千代市の国際的事業の通訳ボランティアとして活躍してきました。平成4年の米国タイラー市との姉妹都市提携以来、第1回の受け入れのときから今年第7回の受け入れまですべてにおいて語学ボランティアのリーダーとして参加しています。

平成18年八千代市国際交流協会設立時に市内関係4団体の調整に尽力し、設立後、同協会の副会長に就任し、現在も活躍中です。

訃報

姉妹都市交流のスタート時から窓口となり、20年の長い間、タイラー市と八千代市のためにご尽力いただいたカズエ・ヒヨシ・ジョンソンさんが、病気のため2010年8月16日（月）にご逝去されました。享年65。

カズエ・ヒヨシ・ジョンソンさんは、平成16年度の八千代市篤行者表彰で教育文化功勞を受賞されました。

2010年の訪問の最後まで、両市の交流に対して貢献されたことに心から敬意と感謝を申し上げる次第でございます。このご恩に報いるには、更に両市の交流を深めることだと思っております。ご冥福をお祈りいたします。



▲最後の訪問となった2010年の市長表敬訪問

編集後記

市が開設した多文化交流センターでお世話をする外国人の数は9月末現在で4,085人。これは50人に一人という正に多文化共生時代になったことを意味します。本協会は設立5年目を迎え、海外都市との国際交流とともに市内住民との交流を推進しており、日本語指導教室、サバイバル日本語講座、小学校での交歓会など各種の事業を精力的に行っております。

早いもので2012年には姉妹都市提携20周年を迎え、本協会としてはタイラー市を訪れる予定です。会員の皆様には、是非、タイラー市への旅行を今から計画されてみてはいかがでしょうか。（瀬下和正）